

令和3年度 九州地方環境パートナーシップオフィス 九州地方ESD活動支援センター 運営業務計画



評価委員会での指摘事項



運営団体ならではのリソース（人脈等）を活用、裾野・業務の拡大

・九州地方環境事務所と運営団体との役割分担を図り、事務所による情報収集・分析と、運営団体による多様なステークホルダーとの関係構築等に注力した効果的・効率的な事業の実施を目指す。



相談対応を分析した活用。

専門家や大学等の研究機関との連携につなげる場づくりや深化に向けた支援。

SDGs啓発ツールの推進・拡大。

・相談カルテを作成し、対応ケースの蓄積を図り、分析の上、取組に活用する。
・相談対応等による場づくりにおいて引き続き活用・推進する。



企業を対象にビジネスチャンスとしてのSDGsの意識付け、サプライチェーン視点での周知。

地域課題の解決に取り組む民間財団と金融機関の連携を促進させる。

・全国事業を活用した経済・企業の巻き込み
・金融機関と連携した基盤強化の取組を活用して展開する。
・エコテクノ展などを活用しローカルSDGsの理解促進に努める。



中・南九州へ取組を広げ、地方銀行を巻き込んだ地域課題の解決の一助としてほしい。

取組主体の裾野を広げるチャレンジに期待したい。

・SDGs未来都市や地域循環共生圏PFとの連携によりエリア展開する。
・関心層のネットワークを多重化し、横断させつつ、テーマ別のプラットフォーム間の接続を図りたい。



効果的な広報活動を九州全域に広げ、自治体等と連携した情報発信活用

SDGsの裾野を広げる情報発信（資料・教材の提供など）

・協働型のローカルSDGs事例情報を収集し発信する。SDGsの普及・啓発等に取り組む団体を支援していくかがポイントになる。
・各企画において、各地の媒体への露出を高める工夫を展開する。
・主催企画等については、開催地マスコミへのアプローチを強化



学校と連携し、コロナ禍で得たノウハウやIoTツールを活用したSDGs/ESD啓発。

教員向けのセミナー等に裾野を広げる。

・公立中学校でのSDGsを活用したキャリア教育支援において実践検証し、発信する。
・教員向けのSDGs/ESD研修を実施し、より多くの生徒にSDGs/ESDに関する知識がインプットされるよう努める。
・九州ESDセンター発行の教材・資料を工夫する。

EPO九州・ESDセンター 運営業務の体系的整理

SDGs達成に向けた取組推進

地域課題解決支援

EPO九州

- 基本業務(発信、相談対応、場づくり)
- 地域循環共生圏推進

推進する人材育成

ESDセンター

- ESD推進計画
- ネットワーク活用型ESD実践支援

運営体制:スタッフ6名

九州地方環境事務所

運営団体

第5期中期目標

•SDGsを活用した地域課題解決への貢献

1, 基本業務 SDGsの認知度向上、SDGsに取り組むプレイヤーの増加

- SDGs推進の裾野を広げるために、SDGsの普及・啓発や活用に関する情報発信・相談対応・助言等を実施する。
- なお、②の業務で創出したモデル事例など、実際にSDGsを活用して地域課題解決に取り組んでいる事例についても、SDGsの活用に資する情報として発信する。

2, 地域循環共生圏推進 SDGsを活用した地域課題の解決に向けての取組の促進、モデル事例の創出

- 地域の多様なステークホルダーと連携し、SDGsを活用して地域課題の解決に取り組んでいる又は取り組もうとしている者に対する伴走支援等を実施する。
- なお、取組の促進やモデル事例の形成に当たり、①の業務を通じて把握した情報やプレイヤー等の活用も検討する。

3, 九州ESDセンター ESD活動の推進によるSDGsを活用した地域課題の解決に資する人材の育成

- SDGsを活用した地域課題の解決に資する人材を地域ごとに育成することを目指し、SDGsを活用した地域課題の解決に取り組む地域の主体と当該地域のESD実践者を接続することなどにより、各地域の課題に応じた、より効果的な地域ぐるみのESD活動を九州・沖縄のESD推進ネットワーク全体として推進する。
- 上記を目的として、ESD活動に関する推進計画の策定、情報発信、相談対応、モデル事例の創出等を実施する。

令和3年度 EPO九州業務一覽

1 基本業務

目標：SDGsの認知度・理解度向上、SDGsに取り組むプレイヤーの増加

業務項目	業務目標
(1)情報の収集及び発信 ①環境保全活動団体等が抱えるSDGs活用に関する課題やニーズの把握 ②EPO九州のWebサイト・SNS・メールマガジン等を通じた情報発信 インターネット及び環境保全活動団体等に対するヒアリング等による情報収集 ③パンフレットの作成・発行	自治体、企業、非営利団体等の多様な主体がSDGsを理解し、また、SDGsに取り組む上で有用な情報を収集して発信することにより、各主体のSDGsに関する取組を支援し、もってSDGsに取り組むプレイヤーを増加させる。
(2)各種情報の照会・相談への対応	自治体、企業、非営利団体等の多様な主体からの各種情報の照会・相談への対応を行う中で、相談者のニーズを踏まえながら、SDGsの認知度・理解度向上やSDGs達成に向けた取組を支援する。
(3)地域課題解決に向けたSDGsの活用に関するセミナー等の開催	南部九州におけるSDGsやローカルSDGs（地域循環共生圏）の取組推進に向けて、SDGsの理解度を向上させ、地域課題解決に向けた取組推進に向けたネットワークを促進させる。
(4)環境カウンセラーのSDGs活用に関する相談等への対応能力向上及び活動の支援	環境カウンセラーのSDGsについての理解度を向上させるとともに、環境カウンセラーがSDGs達成に貢献するものであることを外部にアピールすることによって、環境カウンセラーの更なる活用を促し、もってSDGsの普及啓発やSDGsに取り組むプレイヤーの増加に寄与する。

2 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

目標：SDGsを活用した地域課題の解決に向けての取組の促進、モデル事例の創出

業務項目	業務目標
(1)地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務	九州地方における地域循環共生圏の創造（構築・推進）に向け、プラットフォーム活動団体（PF活動団体）と連携し、モデル活動を展開。業務の実施に当たっては、九州地方環境事務所地域循環共生圏構想推進室、（公財）地方経済総合研究所（肥後銀行シンクタンク）とともに地方支援事務局連携し、専門的知見を得ながら取組みを推進する。
(2)森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	環境（資源・課題）を切り口としたローカルSDGsの実現を目指し、関係者集め、関係者間の意識共有及びアイデア出し等の段階にある地域において、先進事例等の参照及び今後の取組みの検討を行う場を設け、関係者間の連携を促す。
(3)地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。昨年度実施した北九州地域と熊本地域での勉強会の枠組みを生かし、更なる連携強化を目指す。

(1)情報の収集及び発信

●自治体、企業、非営利団体等の多様な主体がSDGsを理解し、また、SDGsに取り組む上で有用な情報を収集して発信することにより、各主体のSDGsに関する取組を支援し、もってSDGsに取り組むプレイヤーを増加させる。

【情報の収集】

- インターネット等を活用し、随時情報を収集
- 相談対応やセミナー等を活用し、各主体がSDGsに取り組む上での課題や支援のニーズを把握し、EPO九州の業務に反映させる。
- 九州・沖縄地域におけるSDGs達成に向けて多様なステークホルダーと連携し、地域課題解決に取り組んでいる事例の収集

【情報の発信】

- 上記で収集した情報をEPO九州のHP等で発信
- ※情報の発信について、キュレーション活動としての情報発信であること、HPをメインのツールとし、メルマガやSNSは導線として使うという方針を記載
- EPO九州の活動等を広く周知するため、パンフレットを作成・発行する。
- R2 ウェブアクセス 337,642(PV)、メルマガ登録660

【成果指標】

- EPO九州HP、SNSの閲覧数
- メールマガジンの新規登録者数、発行数
- 情報の受け手にどのような行動の変容があったか(特に各主体がSDGsの取組を行うに当たり、情報を受け取ったことによつてどのようなメリットがあったか。)

【助言をいただきたい点】

- 事例の収集について、参考となる事例など収集すべき情報について。
- EPO九州のHPについて、SDGsに関する情報をより効果的に伝えていくためにはどのようなレイアウトにすれば良いか。
- 情報発信の成果指標について、「情報の受け手の行動変容」をどのような方法で把握すれば良いか。

(2)各種情報の照会・相談への対応

●自治体、企業、非営利団体等の多様な主体からの各種情報の照会・相談への対応を行う中で、相談者のニーズを踏まえながら、SDGsの認知度・理解度向上やSDGs達成に向けた取組を支援する。

【相談対応】

- 大小13件の相談(5月末現在)
※R2案件としてカウントできた相談19件
- 自治体・協議会等の委員依頼
- SDGs啓発 研修・セミナー講師対応。
- タウン誌「すばいす」(熊本日日新聞社)、SDGs特別号(20ページ)発行に向けた監修依頼。地域経済、教育の視点で、親子で取り組むSDGs推進に向けた監修チームを編成し、取材対応。協賛企業の取組記事へのコメントなど。
- 自治体や経済団体有志が取り組むSDGs活動についての助言等。

【成果指標】

- SDGsに関する相談対応件数
- 相談を受けて実施したセミナー等のアンケート結果
- 相談対応の結果、具体的なSDGsに関する取組の実施に繋がった事例

【助言をいただきたい点】

- 相談対応の成果指標について、「相談対応の結果、具体的なSDGsに関する取組の実施に繋がった事例」はどのように把握すれば良いか。

(3)地域課題解決に向けたSDGsの活用に関するセミナー等の開催

業務目標

●北部九州に比べてSDGsやローカルSDGs（地域循環共生圏）の取組が進んでいない南部九州において、SDGsの理解度を向上させ、地域課題解決に向けた取組を推進する。

業務内容

南九州でのSDGs推進セミナー

- 昨年度連携した鹿児島県大崎町と引き続きネットワーク。
- みやざきSDGs推進プラットフォーム（地域循環共生圏）とも連携し、広域的な取組を発信。
- 令和3年度SDGs未来都市を含め、南九州の指定都市（熊本県水俣市、同菊池市、同山都町、鹿児島県大崎町、同鹿児島市）を横断した情報交流を企図。
- 第3四半期にセミナー開催を調整。

【成果指標】

- 実施したセミナー等のアンケート結果
- セミナー等の結果、具体的なSDGsに関する取組の実施に繋がった事例

【助言をいただきたい点】

- 中・南九州でのSDGs推進に熱心な自治体やネットワークについての事例。
- 普及啓発段階から、具体化・実践化するSDGs活用の方向性、考え方について。

■九州・沖縄地域のSDGs未来都市 ※黄色網掛けは「自治体SDGsモデル事業」選定都市

県名	都市名(選定年度)	提案タイトル
福岡県	①北九州市(H30)	北九州市SDGs未来都市
	②大牟田市(R1)	日本の20年先を行く10万人都市による官民協働プラットフォームを活用した「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業
	③福津市(R1)	市民共働で推進する幸せのまちづくり～津屋崎スタイル～を世界へ発信
	④宗像市(R2)	「世界遺産の海」とともに生きるSDGs未来都市 むなかた
長崎県	⑤壱岐市(H30)	壱岐活き対話型社会「壱岐(粋)なSociety5.0」
	⑥対馬市(R2)	自立と循環の宝の島～サーキュラーエコノミーアイランド対馬～
熊本県	⑦小国町(H30)	地熱と森林の恵み、人とのつながりがもたらす持続可能なまちづくりを目指して
	⑧熊本市(R1)	熊本地震の経験と教訓をいかした災害に強い持続可能なまちづくり
	⑨水俣市(R2)	みんなが幸せを感じ、笑顔あふれる元気なまちづくり
鹿児島県	⑩大崎町(R1)	大崎リサイクルシステムを起点にした世界標準の循環型地域経営モデル
	⑪徳之島町(R1)	あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業
沖縄県	⑫鹿児島市(R2)	“活火山・桜島”と共生し発展する持続可能なSDGs未来都市・鹿児島市
	⑬恩納村(R1)	SDGsによる「サンゴの村宣言」推進プロジェクト～「サンゴのむらづくり行動計画」の高度化による世界一サンゴと人に優しい持続可能な村づくり～
	⑭石垣市(R2)	自然と文化で創る未来～守り・繋ぎ・活きる島 石垣～

いる! 持続



＋ 令和3年度指定都市
熊本県菊池市、同山都町
沖縄県

グリーン成長を目指す都市 (写真提供: 北九州市)

サンゴ礁入り付け事業 (写真提供: 恩納村)

1 (4)環境カウンセラーのSDGs活用に関する相談等への対応能力向上及び活動の支援

業務目標

●環境カウンセラーのSDGsについての理解度を向上させるとともに、環境カウンセラーがSDGs達成に貢献するものであることを外部にアピールすることによって、環境カウンセラーの更なる活用を促し、もってSDGsの普及啓発やSDGsに取り組むプレイヤーの増加に寄与する。九州・沖縄の環境カウンセラー数（事157、市164 計321（部門重複者有り））

業務内容

【企画の背景】

- 様々な主体がSDGs/ローカルSDGs(地域循環共生圏)達成に向けて取り組んでいるが、環境カウンセラー制度は、制度当初SDGsの理念を十分には取り込んでおらず、またインプットする場の提供などの支援体制が脆弱
- 環境カウンセラーに対してSDGsについてのインプットを行い、SDGsに関する相談対応能力を向上させるとともに、SDGs達成に貢献できることを外部にアピールすることで、環境カウンセラーの更なる活用を促す。

環境カウンセラー研修

- 九州各地の環境カウンセラー協会等と情報交換し、連携・セミナー等を提案。
- SDGs推進についてのアンケート(オンライン)を実施。
- ローカルSDGsセミナー、今後のSDGs推進に向けた情報交換会を7月1日に開催(エコテクノ展内)。
- SDGsに取り組む環境カウンセラーをリストアップし、周知に活用(環境カウンセラーの専門分野とSDGsのターゲットを紐づけたものを想定)
- フォローアップのオンライン情報交換会を開催しネットワーク形成。

【その他】

- 支援体制、ネットワークづくりを含めて来年度以降も継続して取り組む予定
- 環境カウンセラーは、温暖化防止活動推進員や県・市町村独自の環境教育指導者派遣制度等と一部役割が重複しており、制度を利用する側が使い辛い点にも問題意識を持っている。
- 研修等をふまえ、自治体を巻き込みながらそれらの制度の整理・役割分担を行い、一体となった情報発信を目指して取り組むことも検討中

【成果指標】

- 実施したセミナー等のアンケート結果
- セミナー等の結果、具体的なSDGs相談対応した事例
- EPO九州が直接ネットワークしたカウンセラーの数

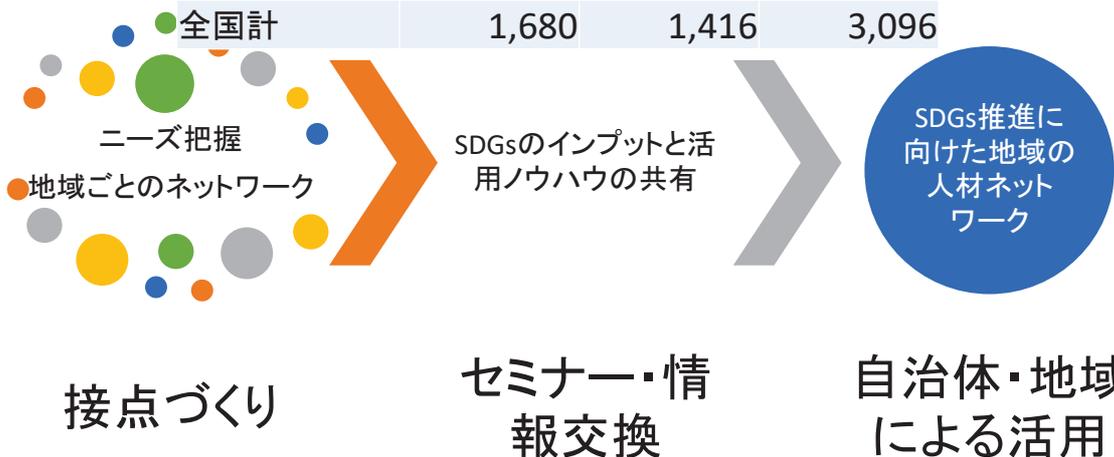
【助言をいただきたい点】

- カウンセラーをはじめ、環境啓発人材登録制度等の状況について。
- 自治体単位での環境啓発人材の活用に向けたしくみづくりについて。

九州・沖縄の環境カウンセラー登録状況

R2.12.15

都道府県	事業者	市民	合計登録数
福岡県	70	51	121
佐賀県	10	1	11
長崎県	14	15	29
熊本県	17	18	35
大分県	13	30	43
宮崎県	10	12	22
鹿児島県	11	20	31
沖縄県	12	17	29
九州・沖縄計	157	164	321
全国計	1,680	1,416	3,096



(1)地域循環共生圏プラットフォームの 環境整備支援等業務

業務目標

九州地方における地域循環共生圏の創造（構築・推進）に向け、プラットフォーム活動団体（PF活動団体）と連携し、モデル活動を展開。
業務の実施に当たっては、九州地方環境事務所地域循環共生圏構想推進室、（公財）地方経済総合研究所（肥後銀行シンクタンク）とともに地方支援事務局連携し、専門的知見を得ながら取り組みを推進する。

PF活動団体の概要



田主丸未来創造会議

- 農業未利用資源（カラタチの枝）の利活用
- 環境価値の高い森林保全
- ルーラルツーリズムの展開

新規



北九州環境ビジネス推進会（KICS）

- 北九州における新経済産業ビジョン策定
- 自然・社会・エネルギーの循環をモデル化
- 多様なステークホルダーの強みを組合わせた協働事業

継続



福岡筑後プラスチックループ 推進協議会

- プラスチック廃棄物のリサイクルのしくみづくり
- 福岡県大木町を中心に周辺自治体とネットワーク
- プラスチック再生企業など事業者との連携

新規



一般社団法人MIT

- 林業を基軸にした「自立と循環の島」構想
- モデル林を中心とした里地里山づくり
- 小規模ながら地域資源と結び付けた経済づくり
- 水産業×林業、蜜蝋×林業、アロマ×林業など多様な仕掛けづくり

継続



みやざきSDGs推進プラットフォーム

- 宮崎県内の主要大学、自治体、金融機関、マスコミなどが連携したプラットフォーム
- 高校生の活動促進に向けたプロジェクト推進
- 広域的な啓発取組（アワードの創設など）

新規



鹿島市ラムサール条約推進協議会

- 基金増にむけたラムサールブランド商品の展開・強化
- 汚泥有効利用施設（デスポーザー）を活用した漁業・農業との協力
- 金融機関との連携「有明海の環境保全を通じたSDGsの目標達成に向けた連携協定」の締結

支援
チーム

業務内容（九州地方支援事務局）

ヒアリング

- 各PF団体に、今年度の取組内容、課題、今後の進め方を確認
- オンラインツールを活用したヒアリングにより関係構築
- 環境整備支援の考え方を共有し、特に新規団体の活動に注視

全国キックオフミーティングに向けた支援

- 発表資料作成のブラッシュアップ支援、PFごとのウリとなる活動について事前相談
- 本省・全国事務局・地方事務所・EPOによる推進体制の強化
- オンラインでのコミュニケーションタイムファシリテーター

環境技術展示会での発信

- エコテクノ展を活用し、プラットフォーム事業を周知。
- 中間報告団体（KICS）の場づくりと連携。

意見交換会開催

- 地域課題をとらえた各PFごとのテーマ設定
- 事前打合せのため現地訪問打合せ
- 5つのPFの状況に応じた開催支援
- 意見交換会をとおして、地域の関係づくりを加速

中間報告会

- オンラインによるテーマ別PF団体間の情報交換を促進し、ネットワーク形成
- 課題の共有や、活動展開におけるヒントなどを意見交換の場づくりをプロデュース
- PF個別の活動を丁寧に把握し、活動支援につなげる（金融機関との連携、行政の巻き込み方、市民参加など）

成果共有会

- 成果共有・創出に向けた個別相談会（オンライン）を実施

【成果指標】

- PF活動団体の成果物
- PF活動団体が展開する活動関係者の広がり
- 事業化に向けた推進計画

【助言をいただきたい点】

- 地域循環共生圏推進に関心のある自治体や協議体、民間団体の情報。
- プラットフォーム支援における効果的な支援手法や成果指標

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境整備支援	各PF団体へ事前説明、ヒアリング日程調整	クオオフ資料作成支援	ヒアリング実施後のフォローアップ、キックオフ資料作成支援	全国キックオフミーティング	環境技術展示会 エコテクノノ出展		九州地方PF連絡会	ステークホルダー構築支援	意見交換会開催支援	中間報告会運営	成果物作成アドバイス	成果共有会

2

(2) 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

業務目標

●環境（資源・課題）を切り口としたローカルSDGsの実現を目指し、関係者集め、関係者間の意識共有及びアイデア出し等の段階にある地域において、先進事例等の参照及び今後の取り組みの検討を行う場を設け、関係者間の連携を促す。

業務内容

情報交換会の開催

- 地方事務所が企画調整する情報交換会等の開催運営補助
- 開催地域についての情報提供、関係団体についての情報収集

1回目

- 自治体内複数部署・関係事業者・団体等
- ローカルSDGsに関わる他地域の事例、全国の先進事例等を登壇者より事例紹介し、開催地域の参照機会とする。

2回目

- 1回目に加えて、地域金融機関等を巻き込む。
- ワークショップ形式で、地域の課題や今後の取り組みのアイデア出しを促す。
- 地域での「協力アクションリスト(仮称)」(参加者の連携可能性、事業のヒント)を整理する

【成果指標】

- 会合の参加者数、所属先の多様性
- 参加者の意識にどのような変容があったか
- 「協力アクションリスト(仮称)」の作成内容

【助言をいただきたい点】

- 森里川海推進と地域活性化、地域経済のつなげ方、考え方について
- 参加者の構成、声のかけ方、情報交換の内容設定をすべきか。
- 本テーマに関心を持つ団体やネットワークの情報について

2

(3) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

業務目標

●地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。昨年度実施した北九州地域と熊本地域での勉強会の枠組みを生かし、更なる連携強化を目指す。

業務内容

情報交換会の開催

- 環境省が企画する情報交換会等の開催補助。
- 会合は北九州地域と熊本地域で各2回実施する。

北九州地域

- 北九州SDGsサポートなど、金融機関等と連携した取組をもとに昨年度の取組を深化させる。
- 専門家によるファシリテーションによる意見交換を促進させる。

熊本地域

- 経済団体等の取組をフォローしながら、情報交換会の企画内容を充実させる。
- 専門家によるファシリテーションによる意見交換を促進させる。

【成果指標】

- 会合参加者数の増加(昨年度比)
- アンケートによる満足度
- 連携事例数(事業化等に向けて動きのあった事例数)

【助言をいただきたい点】

- どのような場であれば金融機関や経済団体の方が参加したいと考えるか。
- どのようなパートナーシップの在り方を目指すべきか。

●全国のEPOネットワークが外部の民間団体等と効果的に連携し、環境省事業であるEPO・ESDセンターの運営基盤をもとに、情報発信や体験の場づくりを展開する。

地球環境基金との連携

- 民間団体による環境保全活動を支援する基金事業の活用に向けて、助成金情報の提供(説明会の開催)や、申請に向けた助言等を行う。
- ユース環境活動ネットワークと連携し、高校生による環境保全活動や持続可能な社会づくりに向けた取組の発信支援を行う。

グリーンギフトプロジェクト(東京海上日動火災)

- 保険会社による寄付プロジェクトとして、日本NPOセンターと全国のEPOが連携し、全国20地域で体験の場づくりを展開。
- 企業とNPOをつなぐ橋渡しを行う。コロナ禍をふまえたプログラムの工夫や、関係団体のネットワークづくりについて側面支援を行う。

相談・依頼に基づく事業連携

- 民間・自治体等からの企画プログラムの立案・運営等依頼について、積極的に対応する。

九州地方センターの業務目標

- SDGsを活用した地域課題の解決に向けての取組の促進、モデル事例の創出

業務項目	業務目標
(1)「九州・沖縄地域ESD推進計画（仮称）」の策定	九州・沖縄地域のESD実践者等からなるESD地域ネットワーク全体としての具体的な目標を設定し、それに向けてそれぞれのESD実践者等がどのような役割を担い、どのようなESD活動を実践していくかを整理・明文化する。もって、九州・沖縄地域のESD実践者等の地域ぐるみのESD推進に向けた自主的な取組を促す。
(2)ESD全国フォーラム分科会活動	【全国フォーラム】 ESD活動推進に資するテーマを定め、ESD全国フォーラムの分科会活動として実践活動を実施し、その結果を当該フォーラムの場で報告することにより、地域内外のESD関係者に交流と学び合いの機会を提供する。 【九州ESDセンターが実施する分科会活動】 一般的な公立中学校におけるSDGsの視点を取り入れたキャリア教育カリキュラム（あまり大げさなものではなく、取り組みやすさに視点を置いたもの）の構築
(3)情報の収集及び発信 ①九州ESDセンターWebサイトのコンテンツ等の作成、運用等 ②ESD活動実践者等が抱える課題やニーズの把握 ③パンフレット等発信情報の作成・配布	自治体、企業、非営利団体等の多様な主体がSDGsを理解し、また、SDGsに取り組む上で有用な情報を収集して発信することにより、各主体のSDGsに関する取組を支援し、もってSDGsに取り組むプレイヤーを増加させる。
(4)ESD活動に関する相談・支援窓口	多様な主体からのESD活動に関する相談に対応することにより、ESDの普及啓発や地域ぐるみのESDを支援する。
(5)地域ぐるみのESD活動の推進	SDGs/ESDに取り組むユース世代が取組の発信・相互交流を行う場を作ることにより、ユース世代におけるSDGs/ESDに関する取組の推進・深化を促し、もって地域ぐるみのESD活動を推進する。

九州・沖縄の地域ESD拠点（22拠点）

福岡	NPO法人 NGO福岡ネットワーク
	国立大学法人 九州大学水素エネルギー国際研究センター
	国立大学法人 福岡教育大学
	大牟田市教育委員会
	北九州ESD協議会
	国立夜須高原青少年自然の家
佐賀	鹿島市 建設環境部 ラムサール条約推進室
	認定NPO法人 地球市民の会
長崎	国立諫早青少年自然の家
熊本	国立阿蘇青少年交流の家
	公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金
	一般社団法人 環不知火プランニング
	公益財団法人 再春館一本の木財団
大分	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム附属はぎこネイチャーセンター
宮崎	宮崎県環境情報センター
鹿児島	NPO法人 くすの木自然館
	そらのまちほいくえん
	屋久島環境文化研修センター（公益財団法人屋久島環境文化財団）
	一般財団法人 鹿児島県環境技術協会
沖縄	一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会
	NPO法人 おきなわ環境クラブ（OEC）
	一般社団法人 沖縄県婦人連合会

1 「九州・沖縄地域ESD推進計画（仮称）」の策定

業務目標

●九州・沖縄地域のESD実践者等からなるESD地域ネットワーク全体としての具体的な目標を設定し、それに向けてそれぞれのESD実践者等がどのような役割を担い、どのようなESD活動を実践していくのかを整理・明文化する。もって、九州・沖縄地域のESD実践者等の地域ぐるみのESD推進に向けた自主的な取組を促す。

業務内容

計画策定プロセス

- 企画運営委員会への提案・協議をふまえ、キックオフ。
- 個別の意見交換、フォーラムにて広く意見をつのり計画をブラッシュアップ。
- 第2回企画運営委員会にて策定
- 従来、個別に取組んできた場づくりを集約し、計画策定に向けたロードマップ化を図る。

意見交換会の開催

- 島しょ地域ESD意見交換会開催
- ビジターセンターESD意見交換会開催

ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催

- 推進計画の考え方を周知する場として広く意見をつのる。
- 大分県内での開催を検討し、地域でのESD推進課題の把握や、事例情報の収集。

【成果指標】

- 計画の策定、その後の取組による地域ぐるみのESD活動の実践事例情報の集約
- 意見交換等における提案内容
- フォーラムでの計画案への意見・提案
- フォーラム等参加者アンケート

【助言をいただきたい点】

- 地域におけるESD推進や支援上の課題。
- SDGs推進に向けた人材育成の課題。

九州・沖縄地域ESD推進計画 概要

A 目指す姿	B ESD活動推進上の課題	C 目標（2030年時点）	D センターの役割
<p>地域ぐるみのESD活動を推進することにより、地域の多様な主体が支え合い協働して環境、経済、社会のバランスを保ちながら、地域の資源を守り次世代に伝える活動に取り組んでいる。</p> <p>地域課題の解決に向けた重点取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州・沖縄地方の特性を踏まえたESDを推進する。特に、島しょ地域のESD推進に努める ・地域のESD活動（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等を含む）を把握する ・多様な主体からなるネットワークを構築する ・人材の育成に取り組む ・経済的支援に結びつく取組を行う ・先進的、先導的取組の波及に取り組む 	<p>課題1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的にESDの認知度・理解度が低い。 ・ユースのESDへの参画が少ない（人材育成機能の不足）。 ・地域のESD活動が把握できていない。 ・ESDの活動団体は活動資金の確保に苦慮している。 ・ESD推進のため専門家を活用したいとのニーズはあるが、どこに相談すれば良いかわからない。 	<p>目標1</p> <p>ESD活動を支援するために有益な情報の収集、整理、蓄積、発信、共有や助言・相談対応等を行うことにより、ESDの認知度・理解度を向上させるとともに、ESD活動に取り組む者を増加させる。</p>	<p>ESDの普及・啓発</p> <p>地方におけるESDに関する情報の収集・発信等</p> <p>地方における助言・相談対応</p>
	<p>課題2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合的な地域課題の解決には複数のステークホルダー間の目的共有・意思疎通が図られる必要があるが、その機会が不足している。 	<p>目標2</p> <p>現場のニーズ・課題を反映した地域ぐるみのESD活動支援体制の整備・強化を行うことにより、地域ぐるみのESD活動事例を創出する。</p>	<p>地方における地域ぐるみのESD活動推進上の課題、ニーズ等の収集・整理・提供</p> <p>地域ESD 拠点の形成支援、活動支援</p> <p>地域ぐるみのESD活動モデル事例の形成支援</p>
	<p>課題3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的・先導的な取組が広がっていない。 ・多様なステークホルダーからなるネットワークがない。 ・島しょ地域のESDを推進する必要がある。 	<p>目標3</p> <p>地域ぐるみのESD活動実践について学び合いを可能とする重層的なネットワークを形成し、知見・ノウハウ等の共有を行うとともに、先進的・先導的な事例を波及させる。</p>	<p>ESD活動に関連する多様な主体の地域ネットワークの形成、相互連携事業や交流事業の実施</p>

「九州地方ESD活動支援センターの活動の方向性等に係る報告書」から抜粋。当該報告書に記載されている「課題」は、ESD活動全般についての内容であることから、「地域ぐるみのESDを推進する上での課題」について改めて整理し、記載する必要がある。

- 一般的な公立中学校におけるSDGsの視点を取り入れたキャリア教育カリキュラム（あまり大げさなものではなく、取り組みやすさに視点をおいたもの）の構築

①活動計画の作成

- ・テーマ設定、中心的な実践者・講師等の選定を行い、年間活動計画を作成する。テーマ設定に当たっては、全国センターと調整の上、担当官と協議する。活動計画には、1回以上の実践活動を含む。

②交流者の参加募集（全国のESD拠点と連携）

- ・ESD推進ネットワークも活用して全国から分科会参加者を募集する。主要な参加対象として地域推進拠点を想定し、域内の地域推進拠点に対して、いずれかの分科会に参加するよう呼びかける。

③学び合いの実施（意見交換）

- ・テーマについて参加者と交流して学び合うために、勉強会・意見交換会を5回程度実施する。勉強会・意見交換会の開催に当たっては、オンライン会議室を手配し、講師等と相談して必要な資料を準備し、議事進行等の会の運営を行う。

④実践活動（授業活動や研修）

- ・講師等と相談して実践活動を企画し、上記③において活動内容に対する意見交換を経て、令和3年11月末までをめぐり、実践活動を実施する。必要に応じて、関係者との調整及び資料の準備、参加者募集、広告等を行う。新型コロナウイルス感染防止の観点から、ESD学習者が参加するオンラインイベントの開催も、実践活動に含むこととする。

⑤報告

- ・全国フォーラムに活動結果を報告する。報告内容には、実践活動に向けての準備、工夫点や特色、参加者数、実践結果概要（参加した学習者の人数を含む）、振り返りを含むものとする。報告方法・様式等は、全国センターと相談する。

【成果指標】

- ・カリキュラムの作成状況
- ・作成における九州ESDセンターの支援・役割の整理

【助言をいただきたい点】

- ・SDGsを活用した学校教育の実践事例
- ・学校と地域団体等の連携における留意点や課題

具体的な支援ニーズ

- ・教職員を対象としたSDGs基礎講座
- ・生徒を対象としたSDGsの講座
- ・学年に応じたカリキュラム提案
- ・キャリア教育につながるプログラムづくり

1年生：基礎的な知識

SDGsの考え方

ロゴに親しみ、問題意識を持つ

カードゲームを活用して思考の幅を広げる

2年生：職場体験学習への接続

SDGsの考え方を応用し、職業と結びつける

地域で働く姿にSDGsを重ねる力を身につける

3年生：キャリア意識と地域・まちづくり

SDGsをヒントに将来の自分自身を描く

SDGsの視点で世の中のしくみを学ぶ（お金の教育など）

地域の資源や課題とSDGsを結び付けて考える

活動スケジュール

月	全体進行・企画	学び合いの場（全5回）		実践
4月		26日 ①関係者打合せの実施（クローズ）	担当者、各関係者	
5月		14日 ②職員研修の実施（クローズ）	中学校教職員対象	実践活動A：全校生徒を対象としたSDGs研修（九州ESDセンター対応） 5月19日、25日（50分×2コマ×2週）
6月	活動計画の提出 参加ESD拠点の呼びかけ			
7月		30日 ③関係者、ESD拠点の顔合わせ、参加拠点打合せ会議（オープン、オンライン）	中学校教職員、地域ESD拠点、有識者	
8月				実践活動B：教職員SDGs研修（有識者による研修）8月5日
9月				
10月		④教員研修の振り返り・カリキュラム検討会（オープン・オンライン）	中学校教職員、地域ESD拠点	
11月				
12月	全国フォーラムでの成果共有			
1月				
2月				
3月		⑤次年度カリキュラム検討会（クローズ）	各関係者	

3

情報の収集及び発信

業務目標

●ESD実践者等がESDを理解し、また、ESDに取り組む上で有用な情報を収集して発信することにより、ESDに取り組むプレイヤーを増加させるとともに、地域ぐるみのESDを推進する。

業務内容

【情報の収集】

- インターネット等を活用し、随時情報を収集
- 相談対応やセミナー等で面会した際などに、ESDに取り組んでいる、あるいは取り組もうとしている各主体からESDに取り組む上での課題や必要としている支援のニーズを把握し、九州ESDセンターの業務に反映させる。
- 収集する情報には、「地域教材」、「地域のESD支援者・支援内容リスト」「地域で実施される体験プログラム」「ESD関連の体験施設・場」「九州ESDセンターによる多主体共同事例」を含めることとする。

【情報の発信】

- 上記で収集した情報を九州ESDセンターのHP等で発信
- ※情報の発信について、キュレーション活動としての情報発信であること、HPをメインのツールとし、メルマガやSNSは導線として使うという方針を記載
- ESDの推進に資することを目的として、地域に密着した情報や事例等を掲載したパンフレットを作成・発行する。
- ☆③の「九州・沖縄地域ESD推進計画（仮称）」を周知するためのものを作成することを想定している。

【成果指標】

- 九州ESDセンターのHP、SNSの閲覧数
- 情報の受け手にどのような行動の変容があったか（特に各主体がESDに取り組むに当たり、情報を受け取ったことによってどのようなメリットがあったか。）。

【助言をいただきたい点】

- 情報発信の成果指標について、「情報の受け手の行動変容」をどのような方法で把握すればよいか。

- 多様な主体からのESD活動に関する相談に対応することにより、ESDの普及啓発や地域ぐるみのESDを支援する。

【ESD活動相談】

- 大小12件の相談(5月末現在) ※R2案件としてカウントできた相談15件
- 学校でのSDGs研修・ワークショップ企画・講師相談。
- 地域ESD拠点と連携・共催等による場づくり支援。
- 学会・フォーラム等、九州各地で開催される大型行事への支援要請。
- 熊本県南の県立高校から相談されているSDGsワークショップは全校的な取組として、昨年度の実績をもとに教員研修、カリキュラム提案を含め対応予定。

【成果指標】

- 相談対応件数
- 相談を受けて実施したセミナー等のアンケート結果
- 相談対応の結果、具体的なESDに関する取組の実施に繋がった事例

【助言をいただきたい点】

- 相談対応の成果指標について、「相談対応の結果、具体的なESDに関する取組の実施に繋がった事例」はどのように把握すれば良いか。

- SDGs/ESDに取り組むユース世代が取組の発信・相互交流を行う場を作ることにより、ユース世代におけるSDGs/ESDに関する取組の推進・深化を促し、もって地域ぐるみのESD活動を推進する。

高校生活動交流会の開催

- 地球環境基金と連携し、ESDセンターが支援・連携する高校、地球環境基金ユース環境ネットワークの高校生活動の交流機会とする。

企画

- 開催時期 令和3年第3四半期
- 会場 オンライン
- 発表高校(案) 有明高等専門学校、熊本県立菊池農業高校、長崎県立諫早農業高等学校食品科学部、福岡県立伝習館高等学校自然科学部
- プログラム: 話題提供、取組紹介、意見交換。
- オンライン併用による実施。

【成果指標】

- 会合の参加者数参加者の意識にどのような変容があったか
- 実施したフォーラム等のアンケート結果

【助言をいただきたい点】

- SDGs/ESDに取り組むユース世代のプレイヤーを増加させるために、九州ESDセンターとしてのどのような支援を行うことが必要か。